

Iwatani

**2019年3月期
決算説明会**

2019年5月23日

岩谷産業株式会社

おはようございます。
本日は、当社の決算説明会にお集まり戴きまして、誠にありがとうございます。
厚く御礼を申し上げます。

- 2019年3月期 決算概況
- 2020年3月期 通期業績予想
- PLAN20の進捗について
- 事業トピックについて

本日は、5月14日に発表致しました2019年3月期決算の概要、2020年3月期の業績見通し、並びに中期経営計画「PLAN20」の進捗状況についてご説明致します。
プレゼンテーションの所要時間は約30分を予定しています。
その後、質疑応答の時間を約30分とり、11:30頃の終了を予定しております。宜しくお願い致します。

2019年3月期 決算概況

それでは、2019年3月期の決算概要について、ご説明致します。

増収の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2019年 3月期 実績	2018年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2019年 3月期 通期予想
売上高	7,150	6,707	+442	7,350
売上 総利益	1,706	1,680	+25	-
営業利益	264	271	△7	284
営業外損益	34	22	+12	16
経常利益	299	294	+5	300
親会社株主に 帰属する 当期純利益	192	175	+16	180

売上高増減

18年3月期通期実績: 6,707

19年3月期通期実績: 7,150 (+442 (+6.6%))

増減要因:

- 総合エネルギー: +150
- 産業ガス・機械: +114
- マテリアル: +199
- 自然産業: △23
- その他: +2

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

3

売上高は、LPガスが高値で推移したことや、カセットこんろ・ボンベの販売が好調だったことに加え、産業ガス・機械およびマテリアル事業が好調に推移したことで、前年同期に比べ6.6%増収の7150億円となりました。

売上総利益は、LPガスの輸入価格が需要期である下期にかけて下落した影響により市況要因がマイナスに転じ、総合エネルギー事業は減益となりましたが、産業ガス・機械事業およびマテリアル事業が好調に推移したことにより、前期比25億円増益の1706億円となりました。

ここで、LPガスの輸入価格の変動が業績に与える影響について、簡単に説明致します。

LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ） **Iwatani**

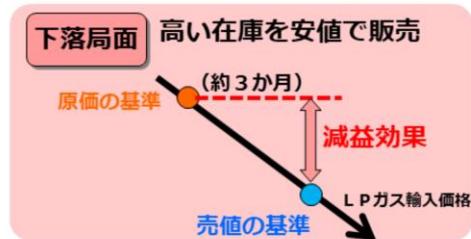
- 前提** ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動 ②輸入～販売の期間は約3ヶ月

卸売価格 ∝ LPガス輸入価格
(中東玉 (CP) と米国玉 (MB) で構成)



LPガス輸入価格が変動 → 短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※



※在庫量・販売時期・販売数量等によって実際の業績への影響は変動します

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

4

当社はLPガスを中東と米国から輸入しており、中東からの輸入価格を「コントラクト プライス」、略してCP(シーピー)と呼び、米国からの輸入価格を「モントベルビュー」、略してMB(エムビー)と呼んでおり、これらは毎月変動致します。

当社は、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格をCPと連動するよう取り決めていましたが、2017年10月からCPとMBに連動する価格体系に変更しています。

一方、当社では在庫評価について「先入れ先出し法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで時間がかかるため、販売する際には、約3ヶ月前の在庫を販売することになります。

この結果、LPガス輸入価格の上昇時には安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には高い原価の在庫を安く売ることとなります。

これらの影響を「市況要因」と呼んでおります。

なお、CPの推移については、決算短信の25ページに記載しております。

増益の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2019年 3月期 実績	2018年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2019年 3月期 通期予想
売上高	7,150	6,707	+442	7,350
売上 総利益	1,706	1,680	+25	-
営業利益	264	271	△7	284
営業外損益	34	22	+12	16
経常利益	299	294	+5	300
親会社株主に 帰属する 当期純利益	192	175	+16	180

営業利益増減

18年3月期
通期実績

19年3月期
通期実績

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

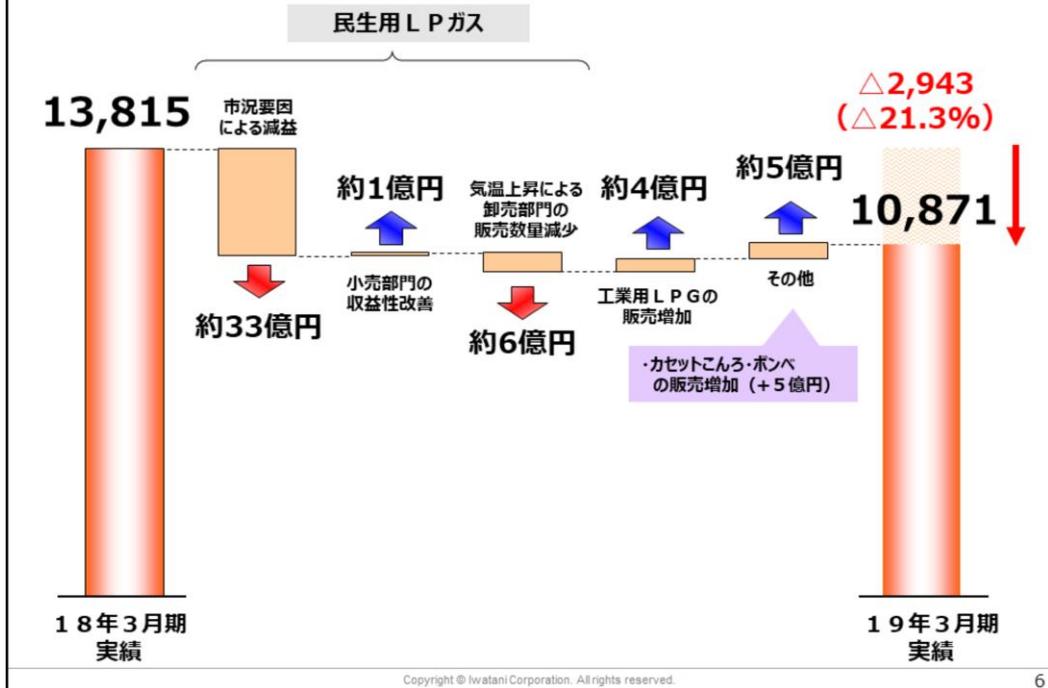
続いて営業利益ですが、増収に伴い運搬諸掛や人件費などの販管費が前期に比べ33億円増加したため、前期比7億円減益の264億円となりました。

営業外損益は、持分法による投資利益や受取配当金の増加や支払利息の減少もあり、前期比12億円の収益改善となりました。その結果、経常利益は、前期比5億円増益の299億円、当期純利益は、前期比16億円増益の192億円となりました。

経常利益、当期純利益については、過去最高益となりました。次に、セグメント別の状況についてご説明させていただきます。

総合エネルギー事業 営業利益増減分析

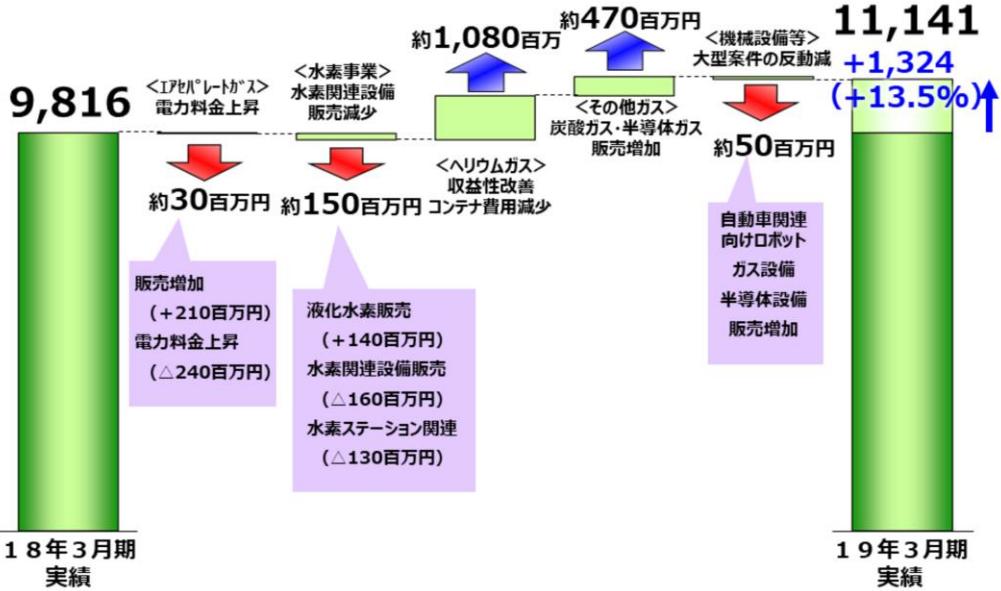
Iwatani
(単位：百万円)



総合エネルギー事業は、「カセットこんろ・ボンベ」や工業用LPガスの販売が好調に推移しましたが、LPガスの市況要因の影響が前年度にプラス5億円、今年度にマイナス28億円発生し、前期比で33億円のマイナスとなった結果、営業利益は29億円減益の108億円となりました。

産業ガス・機械事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



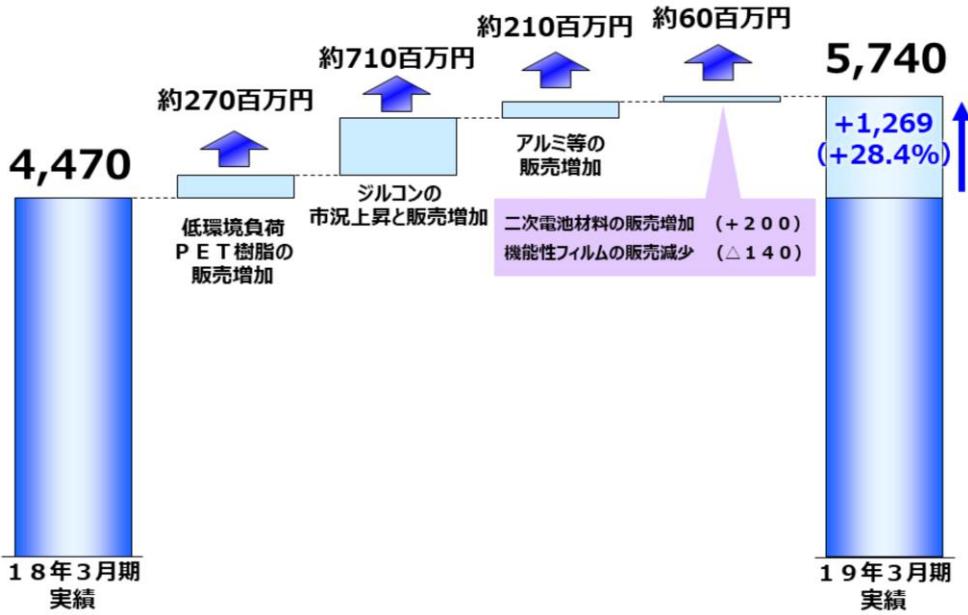
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

次に産業ガス・機械事業ですが、電力料金の上昇に伴う製造コストの増加によるエアセパレートガスの収益性減少や、水素関連設備の販売減少があったものの、市況の上昇やコンテナの償却費用の減少によりヘリウムの収益性が改善したことに加え、炭酸ガス・半導体ガスの販売が堅調に推移し、営業利益は13億円の増益で、111億円となりました。

マテリアル事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



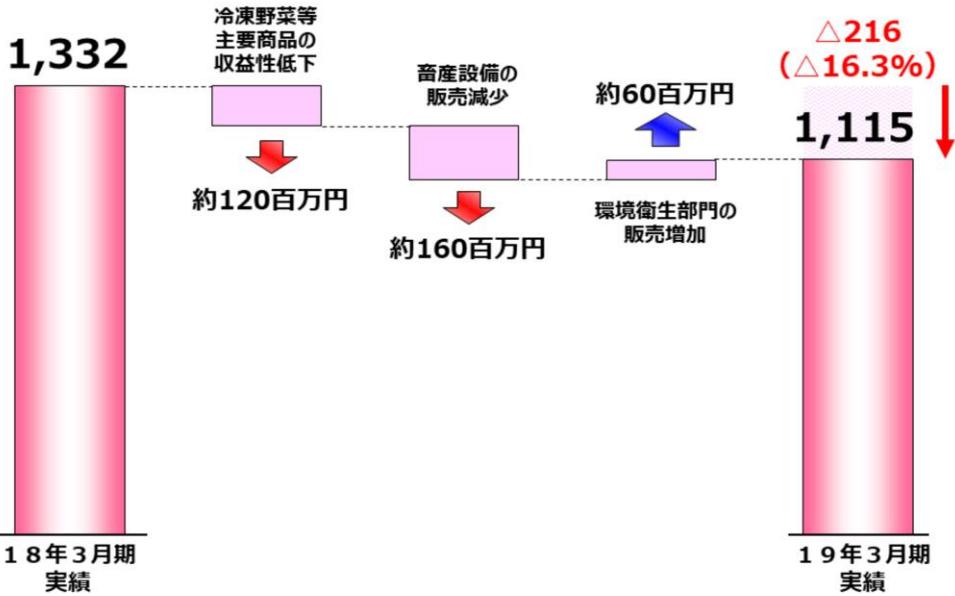
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

8

続いてマテリアル事業は、ミネラルサンドの市況上昇と販売増加に加え、低環境負荷のPET樹脂原料や二次電池材料の販売が大きく伸長し、営業利益は12億円増益の57億円となりました。

自然産業事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

9

自然産業事業は、冷凍野菜等主要商品の収益性が低下したことに加え、畜産設備の販売が減少し、営業利益は2億円減益の11億円となりました。

貸借対照表（連結）

Iwatani
(単位：億円)

	2019年 3月末	2018年 3月末	前年差 増減額	主な増減理由
流動資産	1,978	1,912	+66	現預金の増加とLPGガス輸入価格が前期と比べ高かったことによる棚卸資産の増加
有形固定資産	1,644	1,602	+41	ヘリウムセンター建設などへの投資
無形固定資産	177	176	+0	
投資その他の資産	775	844	△68	保有株式の時価下落による投資有価証券の減少
固定資産	2,597	2,623	△25	
総資産	4,576	4,535	+40	
流動負債	1,727	1,785	△57	LPGガス輸入価格が前期と比べ高かったことにより仕入債務が増加も、短期借入金が増加
固定負債	1,108	1,090	+17	長期借入金の増加
負債	2,836	2,876	△40	
自己資本	1,654	1,544	+110	(自己資本比率 36.1%)
非支配株主持分	85	114	△29	
純資産	1,739	1,659	+80	
負債・純資産	4,576	4,535	+40	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

10

次に主な財政状態についてご説明致します。
 3月末の総資産は前期比40億円増加の4576億円、
 自己資本は前期比110億円増加の1654億円となり、
 その結果自己資本比率は2.1ポイント改善し、36.1%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

Iwatani

(単位：億円)

	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	391	285	+106
投資キャッシュ・フロー	△236	△264	+27
フリー・キャッシュ・フロー	154	20	+133
財務キャッシュ・フロー	△136	△63	△72
換算差額等 ※1	△0	8	△8
現預金等の増減額 ※2	17	△34	+51
現預金等の期首残高	177	212	△34
現預金等の期末残高	195	177	+17

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております。

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

次にキャッシュフローについてご説明致します。

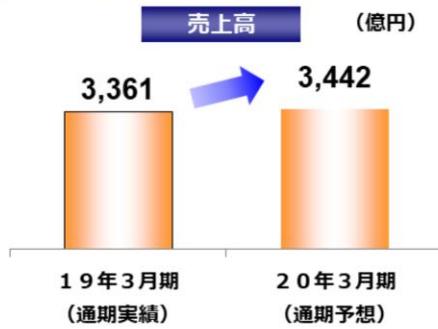
営業キャッシュフローは、純利益や立替資金の減少などにより、前期比で106億円増加し、391億円の収入、投資キャッシュフローは、LPガス、ヘリウムガス、液化水素などへの設備投資があり、236億円の支出となり、結果、フリーキャッシュフローは154億円となりました。また、財務キャッシュフローについては、借入金の返済などにより136億円の支出となりました。

2020年3月期 通期業績予想

続きまして、2020年3月期の各セグメントの見通しについてご説明申し上げます。

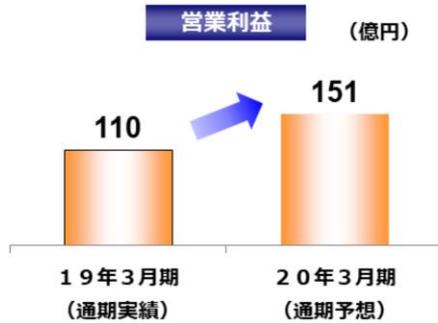
総合エネルギー事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・前年度発生した市況要因の解消 【+】
- ・LPガスの拡販 【+】
- ・ガス機器・生活商材の拡販 【+】
- ・カートリッジガス商品の拡販 【+】



業績が変動するリスク要因

- ◇ LPガス輸入価格、為替の動向
- ◇ 気温変動による販売数量への影響

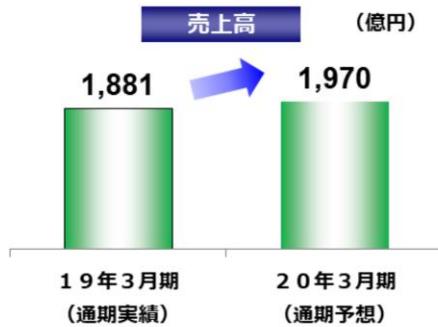
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

13

総合エネルギー事業ですが、売上高は、3442億円で2.4%の増収、営業利益は、151億円で36.5%の増益を予想しております。引き続き、M&A推進や電力小売り・水事業との連携によりLPガス直売顧客数の拡大を図るとともに、燃料転換の推進による工業用LPガスの拡販を進めるなど、LPガス販売数量の増加に努めます。また、ガス関連機器や「カセットこんろ」シリーズの新商品開発、「富士の湧水」などのBtoC商品の販売を強化するとともに、LPガス事業で培った保安や営業力を活かし、都市ガスエリアでの収益拡大を図ることで、エネルギー生活総合サービス事業の拡充に取り組みます。

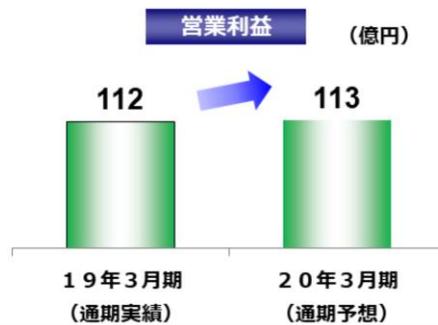
産業ガス・機械事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・ヘリウムの拡販及び収益改善 【+】
- ・各種産業ガス、機械設備等の拡販 【+】
- ・水素ステーション整備に伴うコスト増加【-】



業績が変動するリスク要因

- ◇電力料金上昇による製造コストへの影響
- ◇国内外の景気低迷
- ◇為替変動

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

14

続いて、産業ガス・機械事業ですが、売上高は、1970億円で4.7%の増収、営業利益は、113億円で1億円の増益を予想しております。

引き続き、エアセパレートガスや液化水素のさらなる顧客拡大と、新需要の開拓に努めてまいります。

ヘリウムについては、米国での備蓄量の減少やプラントのトラブルにより供給量が大幅に減少する一方、中国を中心とした半導体や光ファイバー向けの需要が拡大し、世界的な供給不足の状況が継続しております。

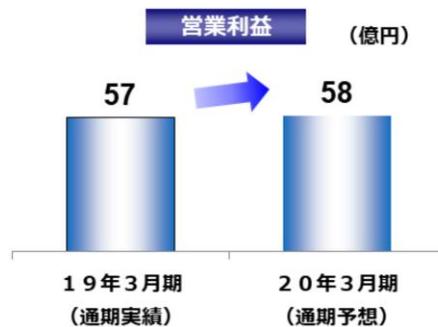
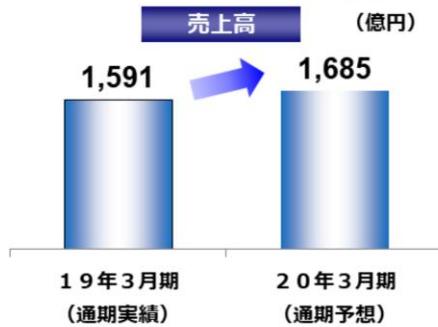
国内外の顧客への安定供給を確保するとともに、調達コストの上昇への対応を進めてまいります。

機械設備については、半導体業界向けは減速懸念があるものの、自動車業界向けを中心に堅調に推移する見通しです。

引き続き産業ガスの顧客基盤を活かし、相乗効果を発揮し、販売拡大に努めます。

マテリアル事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・PET樹脂原料の販売増加 【+】
- ・バイオマス事業の拡大 【+】
- ・二次電池材料の拡販 【+】
- ・ステンレス、アルミ等の拡販 【+】
- ・チタン・ジルコンの市況価格停滞 【-】

業績が変動するリスク要因

- ◇顧客企業の工場稼働率の低下
- ◇資源市況の変動
- ◇為替変動

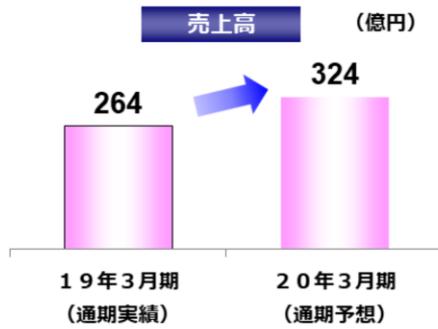
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

15

マテリアル事業については、売上高が1685億円で5.9%の増収、営業利益は58億円で1億円の増益を予想しております。注力している成長事業については、着実に事業規模が拡大しています。2018年度実績では、バイオマス事業、低環境負荷PET樹脂原料、二次電池材料の売上高は合計で200億円を超え、前年比で2倍以上の事業規模となりました。PLAN20の目標である事業規模300億円の達成に向けて、引き続き拡販に努めてまいります。一方、チタン・ジルコン等の鉱物原料事業については、市況価格が頭打ちとなることを想定しており、2018年度並みの収益性を確保することは厳しい見通しですが、成長事業に加え、樹脂原料やステンレス・アルミ等の拡販を見込んでおり事業全体では増益を確保致します。

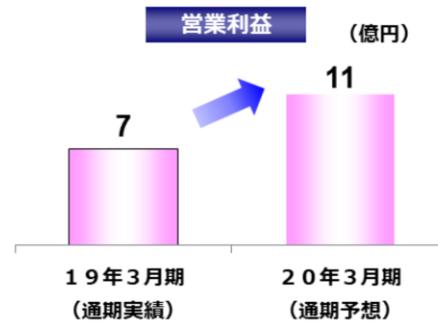
自然産業事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・冷凍食品の拡販 【+】
- ・種豚の拡販 【+】
- ・農業・畜産設備の拡販 【+】



業績が変動するリスク要因

- ◇為替変動
- ◇原材料価格変動
- ◇天候不順

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

16

自然産業事業については、売上高は324億円で22.5%の増収、営業利益は11億円で38.5%の増益を予想しております。品質管理を徹底し、国内外で安心・安全な食品の販売拡大に努めるとともに、農業生産事業への参入や商品開発により事業領域の拡大に取り組めます。また、大手事業者との提携により種豚事業の強化を図ります。

2020年3月期 通期業績予想

Iwatani
(単位：億円)

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期 実績	前年差 (増減額)	前年比 (%)
売上高	7,473	7,150	+322	+4.5%
総合エネルギー事業	3,442	3,361	+80	+2.4%
産業ガス・機械事業	1,970	1,881	+88	+4.7%
マテリアル事業	1,685	1,591	+93	+5.9%
自然産業事業	324	264	+59	+22.5%
その他	52	52	+0	△1.0%
営業利益	305	264	+40	+15.3%
総合エネルギー事業	151	110	+40	+36.5%
産業ガス・機械事業	113	112	+0	+0.3%
マテリアル事業	58	57	+0	+1.0%
自然産業事業	11	7	+3	+38.5%
その他・調整額	△28	△24	△3	—
経常利益	330	299	+30	+10.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	205	192	+12	+6.7%

想定レート 為替 110円/\$ LPガス輸入価格 490\$/ト

※2020年3月期よりセグメント区分を一変更しており、それに伴い2019年3月期実績も組み替えております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

17

各セグメントの状況を踏まえ、
2020年3月期の見通しについて、ご説明申し上げます。
2020年3月期の連結業績予想は、
売上高は、前期比 4.5%増収の 7473億円
営業利益は、前期比 15.3%増益の 305億円
経常利益は、前期比 10.2%増益の 330億円
当期純利益は、前期比 6.7%増益の 205億円
を予定しています。

これにより経常利益、当期純利益に関しては、PLAN20最終年度の
目標を1年前倒しで達成することになります。

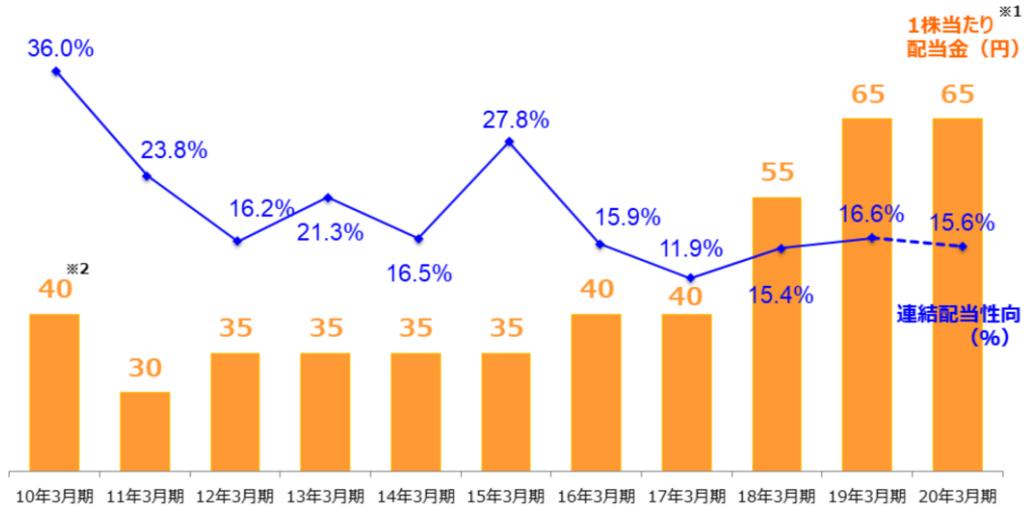
なお、業績予想の前提となる為替の想定は1ドル110円、
LPガス輸入価格(CP)の想定は1トンあたり490ドルです。

株主還元について（連結）

Iwatani

配当方針

- ・継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施



※1 2010年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額
 ※2 うち記念配当15円含む（株式併合の影響を考慮）

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

18

2018年度の配当につきましては、10円増配の65円を予定しております。これにより配当性向は単独で30.1%、連結で16.6%となります。今後とも業績や経営環境を慎重に考慮しながら、適正な利益還元を実施していきたいと考えております。

PLAN20の進捗について

続いて、中期経営計画PLAN20の進捗状況についてご説明させていただきます。

1年前倒しでの経常利益330億円達成を目指す

【経営指標】

項目	2017年度 実績	2018年度 実績	PLAN20 目標値
経常利益	294億円	299億円	330億円
ROE (自己資本利益率)	12.2%	12.0%	10.0%以上
ネットD/Eレシオ	0.73倍	0.64倍	0.7倍

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

PLAN20での経営数値目標については、「経常利益330億円」、「ROE10.0%以上」、「ネットD/Eレシオ0.7倍」を掲げており、順調に推移しております。また、当社はコア事業をガス&エネルギーとしており、主要な事業の成長を測る指標として、「LPガス直売顧客数」、「国内外カセットこんろ・ボンベ販売数量」、「エアセパレートガス販売数量」、「液化水素販売数量」の4指標を重要事業指標とし、達成に向けて取り組んでおります。

各重要事業指標は順調に推移

【重要事業指標】

	2017年度 実績	2018年度 実績	PLAN20 目標値
LPガス直売顧客数	90万戸	99万戸	100万戸
国内外 カセットこんろ・ボンベ販売数量	こんろ 3,333千台 ボンベ 103百万本	こんろ 3,869千台 ボンベ 121百万本	こんろ 4,400千台 ボンベ 137百万本
エアセパレートガス販売数量	15億m3	16億m3	17億m3
液化水素販売数量	59百万m3	70百万m3	90百万m3

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

21

LPガスの直売顧客数は、セントラル石油瓦斯株式会社を完全子会社化したことで、2017年から9万戸増加し、99万戸と拡大しました。

PLAN20最終年度の目標である100万戸を一年前倒しで達成できるよう努めてまいります。

国内外でのカセットこんろ・ボンベの販売については、国内での防災意識の高まりを受け、こんろは2017年の333万台から53万台増加し、386万台となりました。また、ボンベは2017年の1億3百万本から、18百万本増加し、1億21百万本まで伸長致しました。

PLAN20目標値であるカセットこんろ440万台、ボンベ1億37百万本の達成に向けて、新商品の投入や新たな需要を喚起するような販売活動に努めてまいります。

なお、国内シェアは、2019年3月時点で、コンロで80%、ボンベで55%となりました。

トップシェアメーカーとしての地位をさらに盤石にしていきたいと思っております。エアセパレートガスは2017年の15億m3から1億m3増加し、16億m3となりました。PLAN20の目標値である17億m3の達成に向けて、国内外での販売拡大に努めてまいります。

液化水素は2017年の59百万m3から11百万m3増加し、70百万m3と販売が伸長致しました。PLAN20の目標値である90百万m3の達成に向けて、新規顧客の獲得に取り組んでまいります。

事業トピックについて

続きまして、当社の主力事業であるLPガス事業での取り組みについて
ご説明致します。

販売・物流機能の事業効率化

マルキプロパン
Maruigas



セントラル石油瓦斯のセンターと
同一県内の当社センター

- 当社
- セントラル石油瓦斯



セントラルガス



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

23

当社では、M&Aを中心とした直売顧客の獲得を進めておりますが、このたびセントラル石油瓦斯株式会社を完全子会社化致しました。これによりPLAN20の目標値である直売顧客数100万戸まであと一歩と迫っており、前倒しで達成出来るように努めてまいります。加えて、重複している地域での販売・物流機能の効率化を図ってまいります。

災害に強い供給拠点の整備と災害救援隊



台風による停電時でも非常用発電機を使用し、供給を継続した沖縄LPGターミナル



Marui Gas災害救援隊全国一斉訓練

全国50か所に
基幹センターを整備



基幹センターの整備内容

- ・LPガスタンク等の耐震性の増強
- ・オートガス充てん設備の設置
- ・非常用発電機の設置
- ・自動充てんシステムへの更新
- ・事務所棟の耐震補強



登録隊員人数 / 全国3,600名

Marui Gas 災害救援隊

また、当社のLPガスのお客様へ安定供給を維持するため、災害に強いLPガス基幹センターの整備、物流体制の確立を進めております。災害時の早期復旧のために、災害救援隊の組織化もしており、3600名を超える隊員を擁しています。

電力会社と提携し、都市ガス事業を拡大

Iwatani

保安業務

ガス関連機器

B to C 商材



都市ガス顧客

当社保安顧客

関西エリア 80万戸

中部エリア 14万戸

続いて、都市ガス小売自由化への取り組みについてご説明致します。

関西、中部エリアにおける、当社の都市ガス保安顧客は、関電ガスで80万戸、中部電力は14万戸と確実に顧客数を伸ばしております。

増熱用のLPガスの販売に加えて、ガス関連機器やBtoC商品の拡販に着実に取り組むことで、都市ガス事業の収益拡大を図ってまいります。

次に、水素エネルギー社会に向けた取り組みについてご説明致します。

米国カリフォルニア州で水素ステーションの運営開始



West Sacramentoの水素ステーション

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

26

このたび米国カリフォルニア州において水素ステーション4カ所を買収し、米国内では日系企業として初となる水素ステーション運営を開始致しました。

カリフォルニア州では州政府や自動車メーカーによるFCV（燃料電池自動車）の普及促進に向けた取り組みにより、既に6000台以上のFCVが普及しており、日本の約2倍になっています。

この他にも大型物流トラックのFC化や、港湾車両等をFC化する計画など、水素エネルギー利活用への取り組みが進行中で、今後の水素需要の伸長が見込まれています。

カリフォルニア州での運営参入を機に、米国での水素ステーション運営のノウハウも蓄積し日米での整備を進めてまいります。

水素エネルギー社会に向けた取り組み（国内）

水素ステーションの普及に向けた取り組み推進

液化水素の生産体制強化

Iwatani



イワタニ水素ステーション新潟中央



イワタニ水素ステーション和歌山大田



岩谷瓦斯 千葉工場 1Line

2009年
稼働開始



(千葉県市原市)

山口キッド
ハイドロジェン 2Line

2013年 1Line 稼働開始
2017年 1Line 増設

(山口県周南市)



ハイドロエッジ 2Line

2006年 2Line 稼働開始

2019年度
2系統⇒3系統増設予定

(大阪府堺市)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

27

また、当社では現在、国内で26カ所の水素ステーションの建設・運営をしており、4月25日に北信越地方で初となる「イワタニ水素ステーション 新潟中央」を開所致しました。

今年度は、先週土曜日に開設記念式典を開催した和歌山に加えて、東京葛西の開所を予定しており、国内での水素ステーションの普及に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

水素ステーション事業に関する先行投資はあるものの、液化水素ではさらなる新規顧客獲得や、既存顧客の需要増もあり、水素事業全体としては収益を確保しています。

堅調な液化水素需要に対応するため、現在大阪府堺市のハイドロエッジにおいて、2019年度中にもう1系統増設する計画を進めています。

今後も拡大が見込まれる液化水素の需要に対して、万全の生産体制を整えてまいります。

神戸の液化水素ターミナルが完成し、
液化水素運搬船による輸送開始予定（来年度中）



液化水素荷揚げターミナルの完成予想図



液化水素運搬船 提供:川崎重工株式会社



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

28

中長期の取り組みについてご説明致します。

安価で大量の水素ソース確保に向けては、オーストラリアの褐炭から液化水素を製造し輸入する実証を行うため、川崎重工業、電源開発、シェルジャパンとともに技術研究組合を立ち上げており、本年中には神戸の液化水素ターミナルが完成し、来年度中には液化水素運搬船による輸送が開始される予定となっております。

福島新エネ社会構想への参画



水素製造装置の完成予想図 提供：東芝エネルギーシステムズ（株）

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

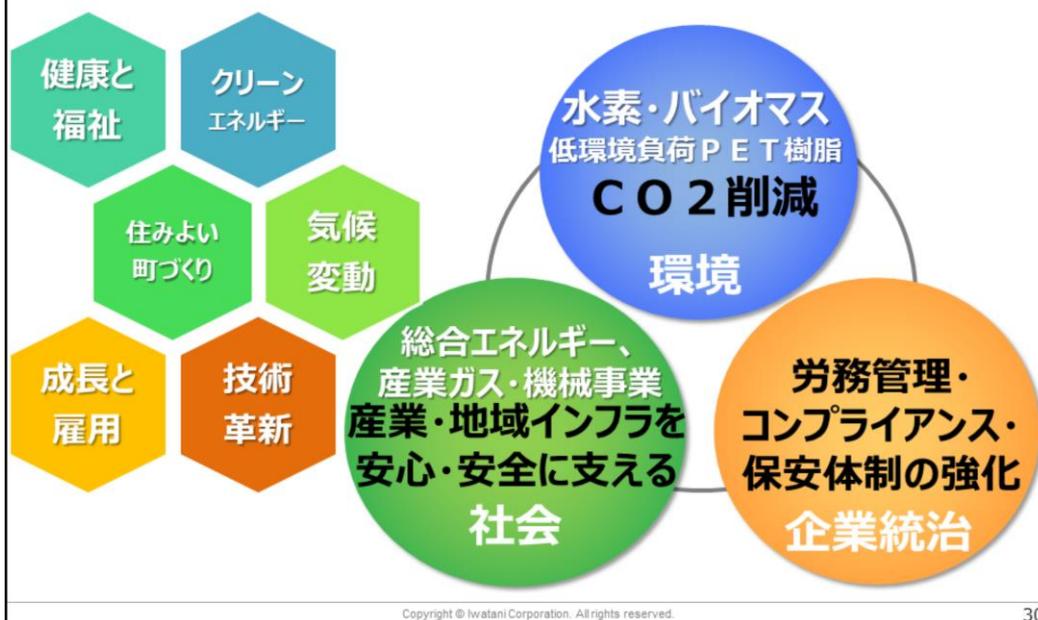
29

また、福島県では、東芝、東北電力と共同で、太陽光や風力など再生可能エネルギーから発電した電気を用いて、世界最大級の水電解の水素製造装置を建設する、「福島新エネ社会構想」にも参画しております。

福島県で製造されたCO2フリー水素は、需要地である首都圏に運ばれ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおいてFCVの燃料として使われる事を想定しています。

この他に、神奈川県、山口県、関西国際空港等、様々な実証にも参画しており、引き続き、水素エネルギー社会の実現に向け、積極的に取り組んでまいります。

SDGs（持続可能な開発目標に貢献する企業運営）



最後に、環境・社会・ガバナンスへの取組みについてご説明します。
 岩谷の水素事業、バイオマス、バイオPET事業などは環境に貢献する事業、
 LPガスや産業ガス事業は、暮らしや産業のインフラを支える事業です。
 こうした事業を推進することで、環境問題や社会への貢献も行っております。
 また、労務管理や保安体制、コンプライアンスの強化にも努め、経営基盤を固める
 ことで、PLAN20の達成にも繋がりたいと考えております。
 なお先ほど申し上げましたが、今年度の業績予想は増収増益を見込んでおります。
 現状は米中貿易問題など難しい経営環境の中ではありますが、ご期待に沿えるよう
 尽力してまいりますので、ご指導賜りますよう、宜しくお願い致します。
 決算説明会のプレゼンテーションは以上です。
 ご清聴ありがとうございました。

Iwatani

お問合せ先

岩谷産業株式会社 経営企画部 IR担当

TEL:06-7637-3470

FAX:06-7637-3333

Webサイト:<http://www.iwatani.co.jp>

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.